

組踊台詞のデータベース化の試案

——「姉妹敵討」を例として——

高橋俊三

組踊の台本はあちこちに存在する。1作品に1つの台本しかないものがあれば、16の台本があるものもある⁽¹⁾。これらの台本をすべてデータベース化したら、校訂本を作ったり、書写の系統や新古を考察したりできる。そのようなものが出来たら、言語学的分析も可能であり、正確を期することができる。例えば、『日本庶民文化史料集成』の188頁下段16、17行目に「急ち御払除は／しめらうやう」とあり、それを「急いでお掃除を／させよう。」と訳してある。文法的に少し疑問である。『古典琉球組踊り』を調べてみると「急ち御払除初みらうやあ」とある。前者は「は」と「しめらう」を切るという誤りをおかしたのであり、後者が正しいということが分かる。また、『日本庶民文化史料集成』190頁上段26行目に「能々下知方念／いゆるごとに」とあり、それを「よくよく下知方念を／いうように」と訳している。『工工四附組踊集』では「能く能く下知方念入ゆる事に」とある。「いうように」の訳は誤りで「入れるように」が正しい。このように台本を比較することによって、正しい解釈ができたりする。

今回は、手始めとして「姉妹敵討」の台本を比較できるデータベースを作った。今後、台詞の読みや訳なども添える所存である。もし、舞台写真もデーターとして加えられると理想的である。

今回データーベース化したのは次の3つの台本である。その一部を活字化した。

1、今帰仁御殿本『組踊集』所収の「姉妹敵討」。これは明治24年12月に書写されたもので、現在は県立図書館東恩納文庫に収蔵されている⁽²⁾。これは日本庶民文化史料集成第十一巻『南島芸能』（1975年）で當間一郎氏によって活字化されている。また、沖縄県史料前近代8『芸能1』（1995年 沖縄県教育委員会）も當間氏によって活字化されている。両者には次のような相違がある⁽²⁾。

「ほ」→「ふ」（『南島芸能』94頁上段20行）

「乙鶴」→「乙樽」（『南島芸能』173頁下段19行）

「衾」→「哀」（『南島芸能』178頁上段21行。その他1例）

「抱」→「拘」（『南島芸能』180頁下段15行。その他4例）

「勝負」→「勝劣」（『南島芸能』181頁下段26行）

「あとてちちやか」→「あとてつちやか」（『南島芸能』185頁下段1行）

今回は『芸能I』の表記を基本として、相違のあるものは（ ）でそれを記した。ただし、頁・段・行は『南島芸能』の位置である。

2, 『工工四附組踊集』所収の「姉妹敵討」。私がコピーしたものは、本来の表紙が欠けていて、「一九四五年求む 工工四附組踊集 持主 當山安吾」と手書きされたもので補修されている。裏書もない。表紙の次ぎに「工工四附組踊集／著作者 故池原厚道」とあり、その上に黒枠つきで、池原厚道と考えられる人の写真が掲載されている。つぎに序が2つある。最初の序の末尾に「昭和十六年十一月下旬 島袋全発」とある。後の序の末尾に「皇紀二千六百年十一月吉旦島袋源一郎」とある。これから工工四の音符を除いた部分をデータ化した。

3, 喜舎場孫進所蔵本『古典琉球組踊り』所収の「姉妹敵討」（表題に「多津山敵討」とあるが、朱で「姉妹敵討」と訂正してあり、また内容も他の「姉妹敵討」と同じ内容なので以下「姉妹敵討」とする）。表紙に「古典琉球組踊り／六組み／孫正」とある。現在八重山博物館に寄託されている。

(注1) 沖縄県文化財調査報告書第八十二号『沖縄の組踊(Ⅱ)－無形民俗文化財記録作成－』
(昭和1987年 沖縄県教育委員会) 参照。

(注2) 當間一郎氏はかつて『南島芸能』は誤りがあったので、県史料ではそれらを訂正した
といった旨のことを、私に話された。

[凡例]

- ①カタカナで書かれているものも、すべて平仮名になおした。旧字体は新字体に、異体字は普通の字体になおした。
- ②踊り字は、その前の文字を繰り返した。
- ③振り仮名は漢字の後に<>つけて入れた。
- ④やや不明確な文字は?を付した。
- ⑤他の台本にはあるが、該当の台本ではないセリフは×を付けた。
- ⑥誤りと思われる字や確認したくなる字などには<マ>を付した。

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
170	上	2	謝名の大王	出様来る者や	66	出様きやる者や	1	出様来る者や
170	上	3	謝名の大王	宜野湾の城主	66	宜野湾の城主	1	宜野湾の城主
170	上	4	謝名の大王	神山の按司の頭役	66	神山の按司の頭役	1	神山の按司の頭役
170	上	5	謝名の大王	謝名の大王	66	謝名の大王、	1	謝名の大王
170	上	6	謝名の大王	けふや名にたちゆる	66	今日や名に立ちゆる	1	今日や名に立る
170	上	7	謝名の大王	秋の十三夜	66	秋の十三夜	1	秋の十三夜
170	上	8	謝名の大王	月見さんともて	66	月見さんともて	1	月見さんともて
170	上	9	謝名の大王	伊佐浜にいきゆん	66	伊佐浜に行きゆん	1	伊佐浜に行ん
170	上	10	謝名の大王	やあ宇地泊のひや	66	やあ宇地泊のひや	1	やあ宇地泊のひや
170	上	11	謝名の大王	誠名にたてる	66	誠名に立ちゆる	1	誠名に立る
170	上	12	謝名の大王	秋の今宵とて	66	秋の今宵<こよひ>とて	1	秋の今宵やとて
170	上	13	謝名の大王	雲はりて照そ	66	雲はれて照す	1	雲晴て照そ
170	上	14	謝名の大王	月の清らさ	66	月の清らさ	1	月の清らさ
170	上	16	宇地泊のひや	めしやいること空や	66	召しやいる事空<そら>や	1	召ること空や
170	上	17	宇地泊のひや	雲きりも晴て	66	雲霧<きり>もはれて	1	雲もちれん晴て
170	上	18	宇地泊のひや	名にたちゆる月の	66	名に立ちゆる月の	1	名に立る月の
170	上	19	宇地泊のひや	かけの清らさ	66	影<かけ>の清さ	1	影の清らさ
170	上	21	同人	されこまに御座めしやうち	66	され、こまに御座召しやうち	1	されこまに御座めしやうち
170	下	1	同人	御詠めよめしやうれ	66	御眺<ながめ>よ召しやうれ	1	御詠よめしやうれ
170	下	3	謝名の大王	やあやあ	66	やあやあ、	1	やあやあ
170	下	4	謝名の大王	あれや牧湊	66	あれや牧港	1	あま牧湊
170	下	5	謝名の大王	此や砂辺村	66	是れや砂辺村	1	此や砂辺村
170	下	6	謝名の大王	越て湾渡具知	66	越て湾渡口	1	越て湾渡具<ママ>
170	下	7	謝名の大王	残波みさち迄	66	ざんば美崎<みさき>迄<ま>で	1	さんは美崎迄
170	下	8	謝名の大王	見渡の広さ	66	見渡しの広<ひろ>さ	1	見渡の広さ
170	下	9	謝名の大王	浦々の釣舟	66	浦々の釣舟<つりふね>	1	浦々の釣舟
170	下	10	謝名の大王	いさりの火のかけも	66	いざり火のかけも	1	ゑさひ火の影ん
170	下	11	謝名の大王	目の前引寄て	66	目の前引きよせて	2	月<ママ>の前引寄て
170	下	12	謝名の大王	詠てんあかぬ	66	眺<ながめ>てもあかぬ	2	詠てんあかぬ

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
170	下	13	謝名の大王	伊佐の浜辺	66	伊佐の浜辺<べ>	2	伊佐の浜辺
170	下	15	喜友名の子	めしやいること	66	召しやいる事	2	召る事
170	下	16	喜友名の子	かすかすの気色	66	数々<かすかす>の景色 <けしき>	2	数々の景色
170	下	17	喜友名の子	面白さあやへもの	66	おもしろさあやべもの	2	面白さあやへもの
170	下	18	喜友名の子	御肝はれはれと	66	御肝はればれと	2	×
170	下	19	喜友名の子	御詠めよめしやうれ	66	御眺<ながめ>よ召しや うれ	2	御詠めよみしやうれ
170	下	21	宇地泊のひや	やあ喜友名の子	66	ああ喜友名の子	2	やあ喜友名の子
170	下	22	宇地泊のひや	御酒あけれ	66	御酒上げれ	2	御酒あけれ
170	下	24	喜友名の子	あけやへら	66	され、上げやべら	2	あけやひら
170	下	26	謝名の大王	たうたう	66	たうたう	2	たうたう
170	下	27	謝名の大王	ひとつつけ	66	一つつけ	2	ひとつつき
171	上	1	喜友名の子	御加よめしやうれ	66	御加へよ召しやうれ	2	御加ひめしやうり
171	上	3	謝名の大王	盃にうつる	66	盃<さかづき>に移<う つ>る	2	盃に移る
171	上	4	謝名の大王	月かけも清らさ	66	月影<かげ>も清さ、	2	月影も清さ
171	上	5	謝名の大王	嬉しさや今宵	66	嬉しさや今宵<こよひ>	2	嬉しさや今宵
171	上	6	謝名の大王	呑みやいあかさ	66	飲<の>みやいあかさ	2	呑ひあかさ
171	上	7	謝名の大王	宇地泊のひや	66	宇地泊のひや	2	宇地泊のひや
171	上	8	謝名の大王	ひとつもた	66	一つもた、	2	ひとつもた
171	上	9	謝名の大王	加てのめ	66	加へてのめ	2	加ひて呑み
171	上	11	宇地泊のひや	されあけやへら	66	され上げやべら	2	されあけやひら
171	上	13	謝名の大王	喜友名の子	66	喜友名の子	2	喜友名の子
171	上	14	謝名の大王	ひとつもた	66	一つもた、	2	へとつむた
171	上	15	謝名の大王	加てのめ	66	加へてのめ	2	加ひて呑み
171	上	17	喜友名の子	されあけやへら	66	され上げやべら	2	され上きやひら
171	上	19	亀千代乙鶴出 羽	照月の清らさ	66	照る月の清さ	2	照月の清さ
171	上	20	亀千代乙鶴出 羽	うしふ(ほ) 汲むて やり	66	潮<しほ>汲<くま>ん てやり	2	汐汲んでやり
171	上	21	亀千代乙鶴出 羽	押列て浜に	66	押し連<つ>れて浜に	2	押列て互に浜に
171	上	22	亀千代乙鶴出 羽	出ていきゆむ	66	出ちて行きゆん	2	行ん
171	上	24	謝名の大王	あれよあれよ	68	あれよあれよ、	2	あれあれ

頁	段	行	話者	『芸能I』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
171	上	25	謝名の大主	ふたり押列て	68	二人押くお>し連くつ>れて	2	式人押列て
171	上	26	謝名の大主	汐汲るわらへ	68	潮くしほ>汲くく>みゆる童べ	2	汐汲る童
171	上	27	謝名の大主	なりふしの清らさ	68	なりふぎの清くきよら>さ	2	なれふちの清さ
171	上	28	謝名の大主	こまによへ	68	こまに呼くよ>べよ	2	是に呼よ
171	下	2	喜友名の子	拝留やへて	68	×	2	×
171	下	4	同人	ゑいわらへ	68	ゐい童べ	2	ゑひ童
171	下	5	同人	謝名の大主の御用	68	謝名の大主の御用	3	謝名の大主の御用
171	下	6	同人	よしれやひをかめ	68	よしれやい拝め	3	よしれやひ拝み
171	下	8	亀松	あへな大主の	68	あへな大主の	3	あひな大主の
171	下	9	亀松	御前によしれゆす	68	御前によせれよす	3	御前によしり寄
171	下	10	亀松	やくめさゆあもの	68	御やぐめさあもの	3	やくみさよあもの
171	下	11	亀松	免ち給り	68	ゆるち給くたばう>れ	3	免ち給り
171	下	13	喜友名の子	いややくめさもないらぬ	68	いやいや、やぐめさんいらぬ	3	いややくみさん無らぬ
171	下	14	喜友名の子	急ちをかめ	68	急ぎ拝め	3	急ち拝み
171	下	16	亀松	やあ乙鶴	68	やあ乙鶴よ	3	やあ乙鶴よ
171	下	17	亀松	大主の御用	68	大主の御用	3	大主の御用
171	下	18	亀松	御断なゆめ	68	おことわりなよめ	3	御断ひならん
171	下	19	亀松	おとろしやよあても	68	おとろしやよあても	3	驚よあても
171	下	20	亀松	よしれやひをかま	68	よせれやい拝がま	3	よしれやひ拝ま
171	下	22	謝名の大主	やあわらへ	68	やあ童べ	3	やあ童
171	下	23	謝名の大主	二人か父親や	68	二人が父親や	3	式人か父親や
171	下	24	謝名の大主	たるかやら	68	たるがやよら	3	誰かやよら
171	下	26	亀松	此二人や伊佐の	68	此の二人や伊佐の	3	此の二人や伊佐の
171	下	27	亀松	村頭しやへる	68	村頭しやべる	3	村頭しやひら
171	下	28	亀松	大山下こおりの	68	大山下庫理の	3	大山下庫理の
172	上	1	亀松	なし子たやへる	68	産子だやべる	3	産子たやひる
172	上	3	謝名の大主	二人か年ことし	68	二人が年今年<ことし>	3	式人か年今年
172	上	4	謝名の大主	いくつなよか	68	いくつなよが	3	幾ちなよか
172	上	6	亀松	我身や十七	68	我身や十七	3	我身や拾七

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
172	上	7	亀松	これや十六なやへいん	68	此れや十六になやべいん	3	是や拾六なやひいん
172	上	9	謝名の大主	はあ目眉色清らさ	68	はあ目眉色ぎよらさ	3	はあ目眉清らさ
172	上	10	謝名の大主	ものいこゑもしふ (ほ)らしや	68	もの云ひ声もしほらしや	3	物言声んしよらさ
172	上	11	謝名の大主	やあわらへ	68	やあ童べ	3	やあ童
172	上	12	謝名の大主	これこれ	68	これこれ	3	くれくれ
172	上	13	謝名の大主	ひとつ持た	68	一つもた	3	一つ持た
172	上	15	喜友名の子	たうたう	68	たうたう	3	たうたう
172	上	16	喜友名の子	御前によてすてれ	68	御前によてすでれ	3	御前に寄てすてり
172	上	18	謝名の大主	にやへん近く寄れ	68	にやへん近くよれ	3	にやひん近く寄れ
172	上	20	宇地泊のひや	たうたう	68	たうたう	3	たうたう
172	上	21	宇地泊のひや	上げてすてれ	68	上げてすでれ	3	あきてすてり
172	上	23	謝名の大主	ひとつつけ	68	一つつけ	3	ひとつつき
172	上	24	謝名の大主	恋しさやわらへ	68	恋しさや童べ	3	恋しさや童
172	上	25	謝名の大主	花に増す姿た	68	花にます姿くすがた>	4	花に増姿た
172	上	26	謝名の大主	持る盃の	68	持ちゆる盃の	4	むちる盃の
172	上	27	謝名の大主	匂のしふ(ほ)らし や	68	匂のしほらしや	4	匂のしうらしや
172	下	1	宇地泊のひや	いやあも御前よて	68	いやあも御前よて	4	いやあん御側寄て
172	下	2	宇地泊のひや	御盃すてれ	68	御盃すでれ	4	御盃すてり
172	下	4	謝名の大主	ゑいわらへ	68	ゐい童べ	4	ゑひ童
172	下	5	謝名の大主	ひとつもた	68	一つもた	4	ひとつ持さ
172	下	7	宇地泊のひや	たうたう	68	たうたう	4	たうたう
172	下	8	宇地泊のひや	あけてすてれ	68	上げてすでれ	4	上てすてり
172	下	10	同人	やあわらへ	68	やあ童べ	4	やあやあ童ひ
172	下	11	同人	とても御杓取てあけ れ	68	逆も御酌とて上げれ	4	逆も御杓取て上れ
172	下	13	謝名の大主	はあてけたてけた	68	はあ出来た出来た	4	はあ、出来た出来た
172	下	14	謝名の大主	ひとつつけ	68	一つつけ	4	ひとつつき
172	下	15	謝名の大主	やあ宇地泊のひや	68	やあ宇地泊のひや	4	やあ宇地泊のひや
172	下	16	謝名の大主	これや梅の花	68	是れや梅の花	4	是や梅の花
172	下	17	謝名の大主	あれや桜花	68	あれや桜花	4	あれや桜花

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
172	下	18	謝名の犬主	みれハ見ることに	68	見れば見る事に	4	見は見ることに
172	下	19	謝名の犬主	思ひ増姿	68	思ひます姿くすがた>	4	思ひ増姿
172	下	20	謝名の犬主	杓とゆる袖の	68	酌くしやく>とゆる袖の	4	杓取る袖の
172	下	22	謝名の犬主	匂のしふ(ほ)らし や	68	匂のしほらしや	4	匂のしよらしや
172	下	23	同人	やあ宇地泊のひや	69	やあ宇地泊のひや	4	やあ宇地泊のひや
172	下	24	同人	此二人にひとをとり	69	此の二人に一踊り	4	此三人やひと躍れ
172	下	26	同人	踊らしやい見れ	69	をどらしやい見せれ	4	躍らしやひみせれ
172	下	27	宇地泊のひや	たうたう躍て	69	たうたう踊て	4	たうたう躍て
172	下	28	宇地泊のひや	御目さましからめけ	69	御目さましがらめけ	4	御目さましからみ ち
173	上	2	亀松	汐汲ひ暮そ	69	×	4	汐汲ひ暮す
173	上	3	亀松	百姓のならひの	69	×	4	百姓の習れの
173	上	4	亀松	いきやし踊やへか	69	×	4	いきやし躍やひか
173	上	5	亀松	免ち給り	69	×	4	免ち給れ
173	上	7	宇地泊のひや	はつかしやもおもな	69	×	4	恥しやん思な
173	上	8	宇地泊のひや	しんしやくもするな	69	×	4	斟酌もするな
173	上	9	宇地泊のひや	急ちひとをとり	69	×	4	急ち一躍れ
173	上	10	宇地泊のひや	踊て御目かけれ	69	×	4	おとて御見かきれ
173	上	12	亀松	やあ乙鶴よ	69	やあ乙鶴よ	4	あや<マ>乙鶴よ
173	上	13	亀松	押返ち今の	69	押<お>し返<かへ>ち 今の	5	押返ち今の
173	上	14	亀松	仰すことやれハ	69	仰せ事やれば	5	仰事やれば
173	上	15	亀松	御断なゆめ	69	御断<おことわ>りなよ め	5	御断なゆみ
173	上	16	亀松	踊て御目かけら	69	踊て御目かけら	5	おとてう見懸り
173	上	18	謝名の犬主	たうたう	69	たうたう	5	たうたう
173	上	19	謝名の犬主	急ちをとりをとり	69	急ぎ踊れ踊れ	5	急ち躍れ
173	上	22	石川はんたま ふし	押風もけふや	69	押す風も今日や	5	押風ん今日や
173	上	23	石川はんたま ふし	こころあてさらめ	69	心あてさらめ	5	こころあてさらみ
173	上	24	石川はんたま ふし	雲晴て照そ	69	雲はれて照す	5	雲晴て照す

(中略)

頁	段	行	話者	『芸能I』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組躍り』
179	下	1	乙鶴	夜のいらぬ内に	78	夜のいらぬ内に	13	夜のいらぬ内に
179	下	2	乙鶴	急ちとをら	78	急ぎ通ら	13	急ち通ら
179	下	4	道行大兼久ふし	名護の大兼久	79	名護の大兼久	13	名護の大兼久
179	下	5	道行大兼久ふし	山入端も越て	79	山入端も越へて	13	山の端も越て
179	下	6	道行大兼久ふし	今帰仁の城	79	今帰仁の城	13	今帰仁の城
179	下	7	道行大兼久ふし	なまと着る	79	なまど着きやる	13	なまと着る
179	下	9	亀松	やあ乙鶴よ	80	やあ乙鶴よ	13	やあ乙鶴よ
179	下	10	亀松	これや親泊村	80	此りや親泊村	13	是や親泊村
179	下	11	亀松	あれや御城元	80	ありや御城元	13	あれや御城元
179	下	12	亀松	脇御門よしれやひ	80	脇御門寄くよせ>れやい	13	脇御門寄やひ
179	下	13	亀松	御取次すらに	80	御取次すらね	14	御取次すらに
179	下	15	同人	御門番衆	80	御門番衆	14	御門番衆
179	下	16	同人	御取次たのみやへら	80	御取次たのみやべら	14	御取次頼のみやひら
179	下	18	門番	のふことかやゆら	80	のを事がやよら	14	のふ事かやよら
179	下	20	亀松	此二人や	80	此の二人や	14	此式人や
179	下	21	亀松	宜野湾伊佐村の	80	宜野湾伊佐村の	14	宜野湾伊佐村の
179	下	22	亀松	百姓大山下こおりの	80	百姓大山下庫理の	14	百姓大山下庫理の
179	下	23	亀松	なし子ややへすか	80	産子ややべすが	14	産子ややひすか
179	下	24	亀松	按司加那志拝て	80	按司加那志拝で	14	按司加那志拝て
179	下	25	亀松	願事のあとて	80	願事のあとて	14	願事のあとて
179	下	26	亀松	おとろしやよあても	80	おとるさよあても	14	おとろしやよあてん
179	下	27	亀松	よしれやひをやへもの	80	寄くよせ>れやい居やべもの	14	参れやひおやへもの
179	下	28	亀松	よたしやある様に	80	よたしやある様に	14	よたしやあるよふに
180	上	1	亀松	みゆんにゆけてたはふれ	80	みおんにゆけて給くたばう>れ	14	おんにゆけて給れ
180	上	3	門番	やあやあ	80	やあやあ	14	やあやあ
180	上	4	門番	他間切の百姓	80	他間切の百姓	14	他間切の百姓
180	上	5	門番	殊に女身の	80	殊<こと>に女身の	14	殊に女身の
180	上	6	門番	やくめさもしらぬ	80	やぐめさも知らぬ	14	やくみさん知らぬ
180	上	7	門番	今の願事や	80	今の願事や	14	今の願事や

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
180	上	8	門番	御取次ならぬ	80	御取次やならぬ	14	御取次ならん
180	上	9	門番	急ち戻れ	80	急ぎ戻れ。	14	急ち戻り
180	上	11	崎山のひや	やあ天底の子	80	やあ、天底の子	14	やあ天底の子
180	上	12	崎山のひや	たとひ下々の	80	たとへ下々*の	14	仮令ひ下々の
180	上	13	崎山のひや	百姓よやても	80	百姓よやても	14	百姓よやてん
180	上	14	崎山のひや	願事のあらハ	80	願事のあらば	14	願事の有は
180	上	15	崎山のひや	おさへ留置かぬ	80	おさへ留め置くな	14	抑ひ留み置ん
180	上	16	崎山のひや	則々に御披露	80	すくずくに御披露	14	則に御披露
180	上	17	崎山のひや	みゆんにゆけてやり	80	みおんにゆけてやり	14	みよんにゆけてやり
180	上	18	崎山のひや	兼々の仰す	80	かねがねの仰せ	14	兼々の仰す事
180	上	19	崎山のひや	をかてをる上に	80	拝で居る上に	14	拝て居る上に
180	上	20	崎山のひや	此わらへふたり	80	此の童べ二人	14	此の童ひ式人
180	上	21	崎山のひや	遥々とこまに	80	遥々くはるばる>とこまに	14	はるはる是に
180	上	22	崎山のひや	よしれたる所存	80	寄くよせ>れたる所存	14	よしれとる所存
180	上	23	崎山のひや	あたになち済め	80	あだになちすみゆめ	15	仇になしゆめ
180	上	24	崎山のひや	たうたう	80	たうたう	15	たうたう
180	上	25	崎山のひや	急ち御取次すれ	80	急ぎ御取次すれよ	15	急ち御取次すれよ
180	上	27	門番	拝留やへて	80	拝ん留めやべて	15	拝ん留やひて
180	上	28	門番	御取次しやへら	80	御取次しやべら	15	×
180	下	2	崎山のひや	やあ童	80	やあ童べ	15	やあ童
180	下	3	崎山のひや	長路の疲れ	80	長路のつかれ	15	長路の疲れ
180	下	4	崎山のひや	足本もやみゆら	80	足もともやみゆら	15	足本も痛ら
180	下	5	崎山のひや	暫しこれなかひ	80	暫くしば>し此れなかい	15	しはし是なかひ
180	下	6	崎山のひや	休息よすれ	80	休息よすれよ	15	休息よすれよ
180	下	8	門番	をかまれよめしやいん	80	拝まれよ召しやいん	15	拝れよめしやん
180	下	9	門番	御前によしれれ	80	御前によせれ	15	御前によしれれよ
180	下	11	湧川の按司	やあやあ	80	やあやあ	15	やあやあ
180	下	12	湧川の按司	女あてなしの	80	女あてなしの	15	女あてなしの
180	下	13	湧川の按司	二人列たちやひ	80	二人つれ立ちやい	15	式人列立ひ

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組躍り』
180	下	14	湧川の按司	いきやる願事の	80	いきやる願事の	15	いきやる願事の
180	下	15	湧川の按司	あとてつ(ち)ちやか	80	あとて来ちやが	15	あとてちやか
180	下	17	亀松	この二人や宜野湾	80	此の二人や宜野湾	15	此の式人や宜野湾
180	下	18	亀松	伊佐村の百姓	80	伊佐村の百姓	15	伊佐村の百姓
180	下	19	亀松	大山下こおりの	80	大山下庫理の	15	大山下庫理の
180	下	20	亀松	なし子ややへすか	80	産子ややべすが	15	産子ややへすか
180	下	21	亀松	按司の頭役	80	按司の頭役	15	按司の頭役
180	下	22	亀松	謝名の大主の	80	謝名の大主の	15	謝名の大主の
180	下	23	亀松	乙鶴とふたり	81	乙鶴と二人	15	乙鶴と式人
180	下	24	亀松	側におかんでやり	81	側くそば>に置くうか> んてやり	15	側に置いてやり
180	下	25	亀松	父親に色々	81	父親に色々	15	父親に色々
180	下	26	亀松	談合のあたす	81	談合のあたす	15	談合のあたす
180	下	27	亀松	二人共に縁組	81	二人共に縁組	15	二人ともに縁組
180	下	28	亀松	濟ちあやへれば	81	すまちあやべれば	15	濟ちあやひれば
181	上	1	亀松	約束よたかて	81	約束よたがて	15	約束よたかて
181	上	2	亀松	御望みにまかしゆすや	81	御望みにまかしゆすや	15	御望に任しゆすや
181	上	3	亀松	百姓の身よやても	81	百姓の身よやても	15	百姓の身よやても
181	上	4	亀松	肝ならぬてやり	81	肝ならぬてやり	15	肝ならぬてやれ
181	上	5	亀松	断たる腹立に	81	断くことは>たる腹立ち に	16	断たる腹立に
181	上	6	亀松	殺ち捨られて	81	殺ち捨られて	16	殺ち捨れて
181	上	7	亀松	いちやしかな親の	81	いきやしがな親の	16	いちやしかな親の
181	上	8	亀松	敵討むともて	81	敵討たんともて	16	敵討んともて
181	上	9	亀松	ねふる目もねらぬ	81	寝くねぶ>る目もねらぬ	16	寝る目むにらぬ
181	上	10	亀松	おめ尽ちをやへすか	81	思めつくち居やべすが	16	思尽ちおやひすか
181	上	11	亀松	女身のかたち討ち	81	女身の敵くかたき>討ち	16	女身のかたき
181	上	12	亀松	力およはらぬ	81	力くちから>及ばらぬ	16	力及らん
181	上	13	亀松	按司加那志天や	81	按司加那志天や	16	按司加那志天や
181	上	14	亀松	数々の武芸	81	数々くかずかず>の武芸	16	数々の武芸
181	上	15	亀松	御嗜あとて	81	御嗜くたしな>みあとて	16	御嗜みあとて

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
181	上	16	亀松	御弟子数余多	81	御弟子数<かず>あまた	16	御弟子数余多
181	上	17	亀松	朝夕御指南	81	朝夕御指南	16	御指南よ
181	上	18	亀松	めしやいんてやり拝 て	81	召しやいんてやり拝で	16	みしやんてやり拝 て
181	上	19	亀松	女身よやても	81	女身よやても	16	女身よやてん
181	上	20	亀松	大刀打よ習て	81	大刀打ちよ習て	16	大刀打よ習て
181	上	21	亀松	我か親のかたき	81	我が親の敵<かた>き	16	わか親のかたき
181	上	22	亀松	討とやひ死は	81	討ち取やい死なば	16	討とやひ死は
181	上	23	亀松	左京の橋広く	81	左京の橋広<ひろ>く	16	左京の橋広く
181	上	24	亀松	極楽よともて	81	極楽よともて	16	極楽よともて
181	上	25	亀松	やくめさんしらぬ	81	やぐめさも知らぬ	16	やくみさん知らん
181	上	26	亀松	よしれやひをやへもの	81	寄<よせ>れやい居やべ もの	16	参やひおやへもの
181	上	27	亀松	慈悲よ御情に	81	慈悲よ御情に	16	慈悲よう情に
181	上	28	亀松	御指南めしやうちた はふり	81	御指南召しやうち給<た ばれ<ママ>>れ	16	御指南みしやうち 給れ
181	下	2	湧川の按司	やあ童	81	やあ童べ	16	やあ童
181	下	3	湧川の按司	謝名の大主の	81	謝名の大主の	16	謝名の大主の
181	下	4	湧川の按司	側にともをらハ	81	側にども居れば	16	側にとん居らは
181	下	5	湧川の按司	親子共楽よ	81	親子共楽に	16	親子共に楽よ
181	下	6	湧川の按司	誇る筈やすか	81	誇<ほこ>る筈<はず> やすが	16	誇る筈やすか
181	下	7	湧川の按司	縁組のあとて	81	縁組のあて	16	縁組のあとて
181	下	8	湧川の按司	約束よたかやすや	81	約束よたがやすや	16	約束よ違やすや
181	下	9	湧川の按司	道ならぬともて	81	道ならぬともて	16	道ならんともて
181	下	10	湧川の按司	ことわたる父親のま こと	81	断たる父親の誠	17	断たる父親の誠
181	下	11	湧川の按司	又女身の二人	81	又女身の二人	17	女身の式人
181	下	12	湧川の按司	親の敵討る	81	親の敵討ちゆる	17	親の敵討る
181	下	13	湧川の按司	念願にはるはると	81	念願に遙々<はるばる> と	17	念願にはるはると
181	下	14	湧川の按司	くたてきやる所存	81	下てきやる所存<しよぞ ん>	17	是に下てきやる所 存
181	下	15	湧川の按司	聞る袖までも	81	聞きゆる袖迄も	17	聞る袖までん
181	下	16	湧川の按司	露とおきゆる	81	露ど落てる	17	露と浮る
181	下	18	平敷大主	めしやいることさら め	81	召しやいる事さらめ	17	召ることさらめ

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
181	下	19	平敷大主	親子の志	81	親子の志	17	親子の志
181	下	20	平敷大主	世の中の手本	81	世の中の手本	17	世の中の手本
181	下	21	平敷大主	沙汰と残やへる	81	沙汰ど残やべる	17	沙汰と残やひる
181	下	23	湧川の按司	やあわらへ	81	やあ童べ	17	やあ童
181	下	24	湧川の按司	願事の深さ	81	願事の深さ	17	願の深さ
181	下	25	湧川の按司	肝くれしやあもの	81	肝ぐれしやあもの	17	肝苦しやあもの
181	下	26	湧川の按司	辞退さぬ拘(抱)置	81	辞退くじたい>さん抱く かがへ>置く>き	17	辞退さん抱ひ置
181	下	27	湧川の按司	教訓よすらに	81	教訓くけうくん>よすら ね	17	教訓よすらに
182	上	1	亀松	ああたうと	81	ああたうと	17	ああたふと
182	上	3	湧川の按司	やあ平敷大主	81	やあ平敷大主	17	やあ平敷大主
182	上	4	湧川の按司	女身の節義	81	女身の節義	17	女身の節義
182	上	5	湧川の按司	守てをる二人	81	守て居る二人	17	守て居る忒人
182	上	6	湧川の按司	外に宿しめて	81	外に宿せめて	17	外に宿しみて
182	上	7	湧川の按司	置や又ならぬ	81	置きや又ならぬ	17	置や又ならぬ
182	上	8	湧川の按司	勝手てて大刀打	81	勝手居て大刀打ち	17	勝手居て大刀打
182	上	9	湧川の按司	指南さんしゆもの	81	指南さんしゆもの	17	指南さんしゆもの
182	上	10	湧川の按司	此やう按司に	81	此の様按司に	17	此の様按司に
182	上	11	湧川の按司	かたて聞す	81	語て聞かせ	17	語て聞す
182	上	13	平敷大主	拝留やへて	81	拝ん留めやべて	17	拝留やひて
182	上	14	平敷大主	たうたう	81	たうたう	17	たうたう
182	上	15	平敷大主	内原によしれて	81	内原くちばら>に寄く よせ>れて	17	御内原によしれや ひ
182	上	16	平敷大主	をなちやらよをかめ	81	をなぎやらよ拝がめ	17	おなちやらよ拝み
182	上	18	湧川の按司	大山下こおりの	81	大山下庫理の	17	大山下庫理の
182	上	19	湧川の按司	娘亀松乙鶴と	81	娘くむすめ>亀松乙鶴	17	娘亀松乙鶴と
182	上	20	湧川の按司	親の敵討る	81	親の敵討ちゆる	17	親の敵討る
182	上	21	湧川の按司	念願のあとて	81	念願のあとて	17	念願のあとて
182	上	22	湧川の按司	弟子に拘(抱)置	81	弟子に抱へ置き	17	弟子に抱置

(中略)

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組躍り』
189	上	27	上原	きやあもいやらぬ	87	きやあんでも云やらぬ	28	ちやあんいらん
189	上	28	上原	神か仏か	87	神か仏か	28	神か仏か
189	下	1	上原	むてとおまれる	87	んでどおまあれいる	28	んてと思まれよる
189	下	2	上原	むちや謝名の大主の	87	むきや謝名の大主の	28	むちや謝名の大主の
189	下	3	上原	ここてめくてあすも尤	87	ここてめぐたすも尤も	28	(ままと?) 見くてあすん尤ん
189	下	4	上原	あのたひのうち	87	あの二人の内	28	あの忒人のうちに
189	下	5	上原	ちゆひわあとしに	87	一人我妻<わとじ>	28	忒人わあとち<妻>に
189	下	6	上原	しゆんたうとんやは	87	なよんだうどんやらい	28	なしゆんやは
189	下	7	上原	万々の願たりて	87	万々の願ひ足<た>りて	28	万々の願ひ足れて
189	下	8	上原	人間に生まれたる	87	人間に生れたる	28	人間に生たる
189	下	9	上原	しんたちゆすかむておもて	87	詮<せん>立ちゆすがんで思て	28	詮立ちよすかんでおもて
189	下	10	上原	おれからこのかた	87	おれからこのかた	28	うれから此の方や
189	下	11	上原	たひか面影の	87	二人がおもかげの	28	忒人か俵の
189	下	12	上原	夜も昼も	87	夜<よる>も昼<ひる>も	28	夜ん昼ん
189	下	13	上原	目の緒にさかて	87	目の緒<を>にさがて	28	目の緒にさかて
189	下	14	上原	とり仕事もすつともならぬ	87	取仕事もすつともならん	28	取り仕事んならん
189	下	15	上原	至極哀(衾)り尽ちをさあ	87	ああ至極あはれつくちやうさあ	28	ああ至極哀れ尽ちふさあ
189	下	17	崎間	いやひ上原	87	いやえ上原へい	28	いやひ上原
189	下	18	崎間	いやあ馬番くらの	87	いやあ馬番位<ぐら>ゐの	28	いやあ馬番ん位の
189	下	19	崎間	もののころざしや	87	志や	28	志や
189	下	20	崎間	ほんのおほ御大名	87	ほんの大御大名<おほおだいみやう>	28	ふんの御大名
189	下	21	崎間	天にはしはし高笑	87	天にはしはし、上原へい、大笑<あつは>、ゝ、ゝ、ゝ、	28	天に橋々高笑
189	下	23	我如古大主	これや我如古大主	87	是れや我如古大主	28	これや我如古大主
189	下	24	我如古大主	けふの御座構へ	87	今日の御座構<がまひ>	28	けふの御座拵ひ
189	下	25	我如古大主	見分にいきゆん	87	見分<けんぶん>に行きゆん	28	見物にいちゆん
189	下	27	同人	やあやあ馬番	87	やあやあ馬番	29	やあやあ馬番ん
189	下	28	同人	これほどのおほごと	87	これ程の大事<おほごと>	29	これ程の大事
190	上	1	同人	見物場をて	87	見物場居とて	29	見物場おとて
190	上	2	同人	いらぬものはなし	87	いらぬもの話	29	いらぬ物噺し

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
190	上	3	同人	無用やあらね	87	無用やあらね	29	無用やあらに
190	上	4	同人	御払除のつとめ	87	御掃除の勤め	29	御払除の勤
190	上	5	同人	仕廻ともやは	87	しまちどもあらば	29	仕廻とんあらは
190	上	6	同人	急ち詰所に	87	急ぎ詰所<つめそ>に	29	急ち詰所に
190	上	7	同人	戻ていけ	87	戻て行け	29	戻ていき
190	上	9	馬番	おう	87	おう	29	ふう
190	上	11	我如古大主	はやういけ	87	ああ、行け	29	×
190	上	13	同人	やあ糸数の子	87	やあ糸数の子	29	やあ糸数の子
190	上	14	同人	立合の刻限	87	立合の刻限<こくげん>	29	立合の刻限
190	上	15	同人	近くなてをもの	87	近くなて居もの	29	近くなておもの
190	上	16	同人	平敷大主	87	平敷大主	29	平敷大主
190	上	17	同人	注進にいけ	87	注進にいけ	29	注進にいき
190	上	19	糸数の子	拝留やへて	87	拝留めやべて	29	拝留やひて
190	上	21	我如古大主	やあ牧志の子	87	やあ牧志の子	29	やあ牧志の子
190	上	22	我如古大主	目にあまる見物人	87	目にあまる見物人	29	身に余る見物人
190	上	23	我如古大主	関合よすらは	87	せきあひよすらば	29	開<ママ>(せき)合よすらは
190	上	24	我如古大主	立合の障	87	立合の障り	29	立合の障へ
190	上	25	我如古大主	怪我の本たいもの	87	けがの本だいもの	29	怪我の本たひもの
190	上	26	我如古大主	能々下知方念	87	能く能く下知方念	29	能々下知方念
190	上	27	我如古大主	いゆるごとに	87	入ゆる事に	29	入よる事
190	上	28	我如古大主	構の役々に	87	構の役々に	29	構の役々に
190	下	1	我如古大主	かたくいひ渡す	87	堅く云ひ渡せ	29	語て云渡す
190	下	3	牧志の子	拝留やへて	88	拝留めやべて	29	拝留やへて
190	下	5	我如古大主	たうたう	88	たうたう	29	たうたう
190	下	6	我如古大主	いそけいそけ	88	急げ急げ	29	急か急か
190	下	7	但し書き	但神山の按司我如古大主平敷大主三人、棧敷着座、	88	但し、神山の按司、我如古大主、平敷大主三人、棧敷へ着座、	29	附：助太刀兩人橋懸より罷出、棧敷前へ一礼にて左右に何公仕候得者、
190	下	7	但し書き	新垣高良兩人罷出御礼、助力として舞台棧敷前左右	88	新垣高良兩人、罷出御礼助け太刀として舞台棧敷前左右に構へ、	29	亀松乙鶴、橋掛より壺人宛出羽。
190	下	7	但し書き	に何出候得は亀松乙鶴一人一人出羽笛太鼓一勢よ	88	亀松乙鶴一人一人出羽、	29	笛太鼓一勢より打とまて、此時
190	下	7	但し書き	り打上げまで謝名の太主出羽、笛太鼓一勢より打上げまで	88	笛太鼓一勢より打ち上げまで、謝名の太主出羽笛太鼓一勢より打ち上げ迄で、	30	助太刀の兩人は大刀不拔則、抜候氣舞有之候事。

頁	段	行	話者	『芸能I』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
190	下	8	亀松	やあ大主	88	やあ大主	30	やあ大主
190	下	9	亀松	このさきの悪業	88	此の先きの悪業	30	此先の悪業
190	下	10	亀松	けふとおめしゆら	88	今日ど思しよら	30	今日とシミ知ゆら
190	下	11	亀松	島国よ豊む	88	島国よとよむ	30	島国よ豊む
190	下	12	亀松	謝名の大主の	88	謝名の大主の	30	謝名の大主の
190	下	13	亀松	女身の手にかかて	88	女身の手にかかて	30	女身の手懸て
190	下	14	亀松	命ちとらすいか	88	命取らず故くより>か	30	命とらすよひか
190	下	15	亀松	とても切腹	88	逆も切腹や	30	逆も切腹
190	下	16	亀松	きよらことあらね	88	きよらものやあらね	30	清ら事やあらに
190	下	18	謝名の大主	押参なこといふめ	88	推参な事云な	30	推参な事いよみ
191	上	1	謝名の大主	急ちたて	88	急ぎ立て	30	急ちたて
191	上	2	謝名の大主	只ひと大刀に	88	只一大刀に	30	一刀に
191	上	3	謝名の大主	切殺ちとらさ	88	切り殺ち取らさ	30	殺ちとらさ
191	上		但し書き	亀松立合、笛太鼓三段打上	88	×	30	附：亀松立合、笛太鼓三だん打上迄、乙鶴は戦ひ半
191	上		但し書き	迄、乙鶴ハ戦ひ半に立	88	×	30	二時分見合、両人手に相戦ひ、
191	上		但し書き	×	88	×	30	謝名は橋へいくるひ入る
191	上	5	神山の按司	やあ我如古大主	88	やあ我如古大主	30	やあ我如古大主
191	上	6	神山の按司	亀松乙鶴	88	亀松乙鶴	30	亀松乙鶴
191	上	7	神山の按司	こまによへ	88	こまに呼べ	30	是に呼へ
191	上	9	我如古大主	やあ御前に御用	88	やあ御前に御用	31	やあ御前に御用
191	上	10	我如古大主	御側寄よてをかめ	88	御側ばよて拝め	31	御側寄て拝み
191	上	12	神山の按司	やあやあ	88	やあやあ	31	やあやあ
191	上	13	神山の按司	女身の謝名と	88	女身の謝名と	31	女身の謝名と
191	上	14	神山の按司	立合の事や	88	立ち合ひの事や	31	立合の事や
191	上	15	神山の按司	兼てをて至極	88	かねて居て至極	31	兼てうて至極
191	上	16	神山の按司	世話におもよたん	88	世話におもよたん	31	世話に思よたん
191	上	17	神山の按司	ああ是程も	88	ああこれ程も	31	ああ此程ん
191	上	18	神山の按司	たやすくかたき	88	たやすくかたき	31	軽くかたき
191	上	19	神山の按司	討捕たす	88	討ち取たす	31	討取す

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組踊り』
191	上	20	神山の按司	神代にも聞ぬ	88	神代にも聞かぬ	31	神代にも聞ぬ
191	上	21	神山の按司	働とやゆる	88	働どやる。	31	働とやゆる
191	上	22	神山の按司	この褒美しゆすや	88	やあ此の褒美しゆすや	31	この褒美しゆすや
191	上	23	神山の按司	先あとの事	88	先づ後<あと>の事	31	先あとの事
191	上	24	神山の按司	亀松乙鶴	88	亀松乙鶴	31	亀松乙鶴
191	下	1	神山の按司	みすく聞	88	みすく聞け	31	みすく聞き
191	下	2	神山の按司	湧川の按司の	88	湧川の按司の	31	湧川の按司の
191	下	3	神山の按司	御夫婦の御慈悲御情や	88	御夫婦の御慈悲御情や	31	御夫婦の御慈悲御情や
191	下	4	神山の按司	ふたり命ととめ	88	二人命ととめ	31	ふたり命ととめ
191	下	5	神山の按司	は<ママ>すれてや済ぬ	88	忘れてやすまぬ	31	忘れてや済ぬ
191	下	6	神山の按司	明日や御挨拶に	88	明日や御挨拶<ごあいさつ>に	31	明日や御挨拶に
191	下	7	神山の按司	使者よ立よもの	88	使者よ立てよもの	31	使者よ立よもの
191	下	8	神山の按司	列立ひ美拜	88	連<つ>れ立ちやい美拜	31	列立ひ美拜
191	下	9	神山の按司	おんによけてくう	88	みおんにゆけて来<く>を。	31	おんによけてくう
191	下	11	亀松	かたき討とたる	88	かたき討ち取たる	31	敵討取る
191	下	12	亀松	御慈悲たうとさや	88	御慈悲たうとさや	31	御慈悲とふとさや
191	下	13	亀松	い言葉にのへて	88	云言葉にのべて	31	い言葉のんて
191	下	14	亀松	みゆんにゆけもならぬ	88	みおんにゆけもならぬ	31	みよんにゆけんならん
191	下	15	亀松	此御恩美拜や	88	此の御恩みはいや	31	此御恩美拜や
191	下	16	亀松	二所の御主の	88	二所の御主の	31	式所の御主の
191	下	17	亀松	ももとはれてふはれ	88	百<もも>とはれちやうはれ	31	百年はれ長われ
191	下	18	亀松	おかけほさへめしやす	88	うかけほさい召しやいす	31	おかけほさへめしやれ
191	下	19	亀松	夜昼も二人	88	夜る昼るも二人	32	夜昼ん式人か
191	下	20	亀松	御願しやへら	88	御願しやべら	32	御願しやへら
191	下	22	神山の按司	やあ平敷大主	88	やあ平敷大主	32	やあ平敷大主
191	下	23	神山の按司	立合の様子	88	立ち合ひの様子	32	立合の様子
191	下	24	神山の按司	細々の事や	88	細々の事や	32	細々の事や
191	下	25	神山の按司	按司の御夫婦に	88	按司の御夫婦に	32	按司の御夫婦に
191	下	26	神山の按司	おんにゆけてたはふり	88	みおんにゆけて給<く>たばう<れ>	32	うんにゆけて給れ

頁	段	行	話者	『芸能Ⅰ』	頁	『工工四附組踊』	頁	『古典琉球組躍り』
191	下	28	平敷大主	拝留やへて	88	拝留めやべて	32	拝留やひて
192	上	2	神山の按司	やあかたき討とたる	88	やあやあ、かたき討ち取たる	32	やあやあ、敵討取たる
192	上	3	神山の按司	けふの嬉しさに	88	今日の嬉<うれし>さや	32	今日の哮しやや
192	上	4	神山の按司	打誇てふたり	88	打ち誇<ほこ>て二人	32	打ふくて式人
192	上	5	神山の按司	踊て戻れ	88	踊て戻れ	32	連戻り
192	上	7	亀松乙鶴言葉	ああたうと	89	ああたうと	32	ああたふと
192	上	9	亀松	やあ乙鶴よ	89	やあ乙鶴よ	32	やあ乙鶴よ
192	上	10	亀松	みゆんき事かめて	89	みおんき事かみて	32	みよんちかみて
192	上	11	亀松	躍て戻ら	89	踊て戻ら	32	躍て戻ら
192	上	13	立雲ふし	かたき討とやひ	89	かたき討とやひ	32	敵討とやひ
192	上	14	立雲ふし	誇て戻ゆすや	89	誇て戻よすや	32	ふくて戻よすや
192	上	15	立雲ふし	御慈悲ある御主の	89	御慈悲ある御主の	32	御慈悲ある御主の
192	上	16	立雲ふし	おかけさらめ	89	お蔭さらめ	32	うがちさらみ